

## 短期大学における専門教育プログラムの課題抽出

— 第二報 住居学科卒業生の就業意識 —

Understanding the problems facing professional education programs in junior colleges

— Part 2; Department of Housing Studies graduates' awareness of work

小林文香

Fumika Kobayashi

### 要約

本研究は、共栄学園短期大学住居学科卒業生の生活および就業状況をアンケート調査により明らかにし、今後の短大教育のあり方を検討することを目的とする。第一報に続き、本報では卒業生の就業状況別に就業に対する意識、転職経験、再就職経験について把握を行った。結果は以下のとおりである。

- 1) 現在就業していない卒業生の就業意向は、条件次第で就業を希望する者が7割近くになり、パート・アルバイトを望む者が多い。また、建設・住宅・インテリア関連業界で働きたいと考えている者が多い。
- 2) 就業している卒業生は、収入、労働時間への満足度が低く、半数近くが転職・転業・独立を考えている。
- 3) 現在就業していない卒業生は、人と知り合える場やネットワーク形成、地域情報への関心が低い。しかし、再就職経験者が再就職時にあればよかったものとして人と知り合える場やネットワーク形成、地域情報があげられている。

**キーワード：**住居学科、卒業生、就業状況、転職、再就職

## 目次

- I はじめに
- II 調査の概要
  - 1 調査の内容および方法
  - 2 調査回答者の概要
- III 現在仕事についていない卒業生の就業意向
  - 1 今後の就業への意向
  - 2 雇用形態の希望
  - 3 今後の働き方
    - 1) 業種・働き方の希望
    - 2) 建設・住宅・インテリア業界における希望職種
  - 4 再就職支援の希望
- IV 就業者の意識
  - 1 仕事への評価
  - 2 転職・転業・独立の希望
    - 1) 業種・働き方の希望
    - 2) 建設・住宅・インテリア業界における希望職種
    - 3) 転職・転業・独立時期のイメージ
- V 転職・再就職の経験
  - 1 転職経験者が考える有益な情報提供先
  - 2 再就職経験者が考える有益な情報提供先
  - 3 再就職時に利用したかった機関・サービス等
- VI まとめ

### I はじめに

これからの短期大学における専門教育とは、社会的環境、経済的環境の目まぐるしい変化に対応できる新たな専門家領域を開拓することであると考える。これは、学生たちに卒業後の働く姿の可能性を示しながら、地域に貢献しうる人物を育成することである。また併せて、社会人がどのような就業状況にあるかを把握し、地域におけるオープンカレッジの可能性を検討するなど、実践的な提案をしていくことが不可欠であると考え。特に短期大学の卒業生は女性が大半であることから、女性が生涯をとおしてどのように就業していくのか、そこにどのようなサポートが必要であるかを視野に入れて教育の方向性を検討することは、今後の短期大学のあり方を考える上でも重要である。

本研究は、このような新たな専門教育を検討するため、本学の教育が卒業生にどのよう

な影響を及ぼし、彼らの生活や仕事の現状把握を行う。第一報では、住居学科卒業生を対象に就業状況について動向調査を行い、卒業生の生活観、就業状況の把握を行った。本報では、就業状況別に就業に対する意識、転職、再就職の経験について報告する。

## II 調査の概要

### 1 調査の内容および方法

本調査では、①卒業後の進路、②就業状況、③住居学科の教育への評価、④現在の生活観、⑤仕事の満足度および重視度、⑥資格取得状況、⑦卒業後の再教育への関心、⑧転職・再就職の経験について項目を設け質問した。

調査は、本学住居学科第1回生（1986年3月卒業）から第19回生（2005年3月卒業）を対象とした。調査期間は2005年10月7日から2005年10月31日である。調査票は配布、回収とも郵送で行い、配布数1086名、回収数196名、回収率18.0%である。

### 2 調査回答者の概要

調査回答者の基本的な属性を表1に示す。卒業生の年齢は調査回答者は30代前半が最も多く、次に20代後半である。性別は、男性9名、女性187名となり、本学住居学科の平均的な男女比である。年齢を追うごとに既婚率、子供のいる割合が高くなり、平均的な家族構成をしているといえる。また、現在の就業状況をみると、仕事を続けている卒業生は全体の68.9%になり、約3割の卒業生が現在仕事に就いていない。

表1 調査回答者の属性

年 齢	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40歳～	合計(人)
	29	56	68	39	4	196
	14.8%	28.6%	34.7%	19.9%	2.0%	100.0%

配 偶 者	あり	なし	無回答	合計(人)
	91	104	1	196
	46.4%	53.1%	0.5%	100.0%

性 別	男 性	女 性	合計(人)
	9	187	196
	4.6%	95.4%	100.0%

就 業 状 況	現在就業	以前就業していた	就業経験なし	合計(人)
	135	57	4	196
	68.9%	29.1%	2.0%	100.0%

子 供	あり	なし	合計(人)
	67	129	196
	34.2%	65.8%	100.0%

## III 現在仕事についていない卒業生の就業意向

現在仕事についていない卒業生は回答者196名中61名である。この61名に対し、今後の就業への意向を聞いた。以下、その結果を述べる。

### 1 今後の就業への意向

図1に現在仕事についていない卒業生の就業意向を示す。以前仕事についていた卒業生の71.4%は条件次第で仕事につきたいと思っている。一方、卒業後一度も仕事に就いたことのない卒業生の4分の3は仕事に就きたいと思っている。どちらも就業意欲があることがわかる。

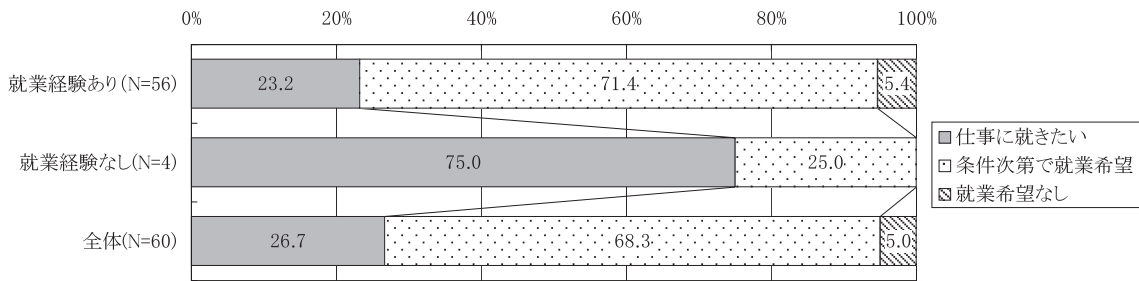


図1 今後の就業への意向

### 2 雇用形態の希望

図2に雇用形態の希望を示す。以前仕事についていた卒業生は「パート・アルバイト」を希望するものが多い。これは先の就業意向で時間、場所などの条件優先で就職を考えるものが多いためと考えられる。また、卒業後仕事についたことのない卒業生は正社員への希望が強い。

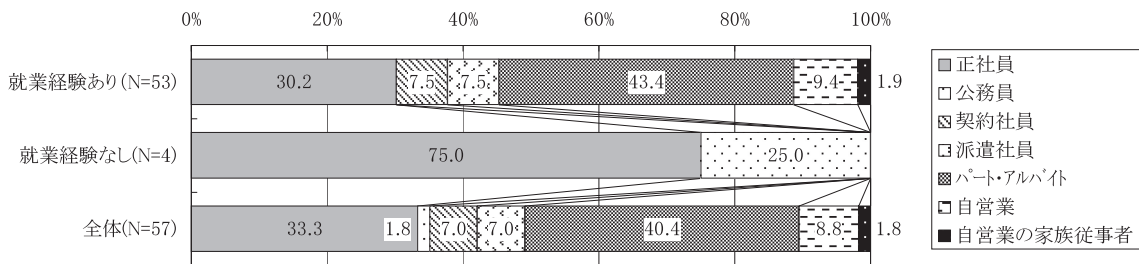


図2 雇用形態の希望

### 3 今後の働き方

#### 1) 業種・働き方の希望

図3に業種・働き方の希望を示す。就業経験に関わらず「建設・住宅・インテリア」への希望は高い。以前仕事についていた卒業生では43.4%が「建設・住宅・インテリア」の仕事我希望している。しかし、一方で「条件優先」が34.0%、「趣味を仕事に」11.3%となっている。転職・退職理由として、仕事の環境以外に、結婚、子育て、自身の健康上

の理由があげられた<sup>1)</sup>。再就職に際しては現在の自分の生活スタイルに柔軟に対応できる仕事の仕方が求められているといえる。

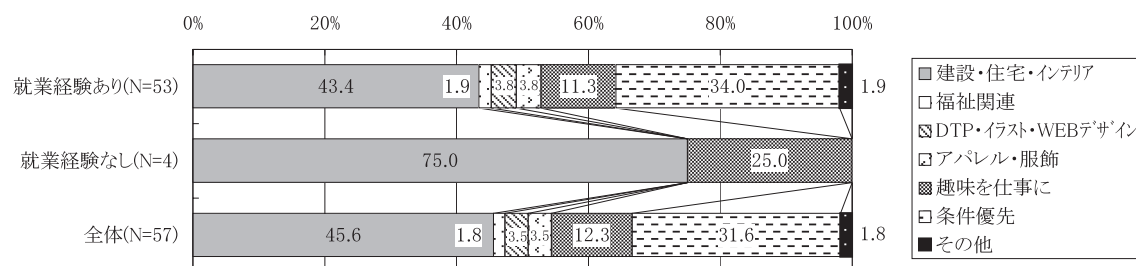


図3 業種・働き方の希望

## 2) 建設・住宅・インテリア業界における希望職種

図4に建設・住宅・インテリア業界で働くことを希望した26名の希望職種を示す。「設計デザイン」「CADオペなど専門技術職」がそれぞれ四分の一程度を占め、半数が専門技術職志向である。

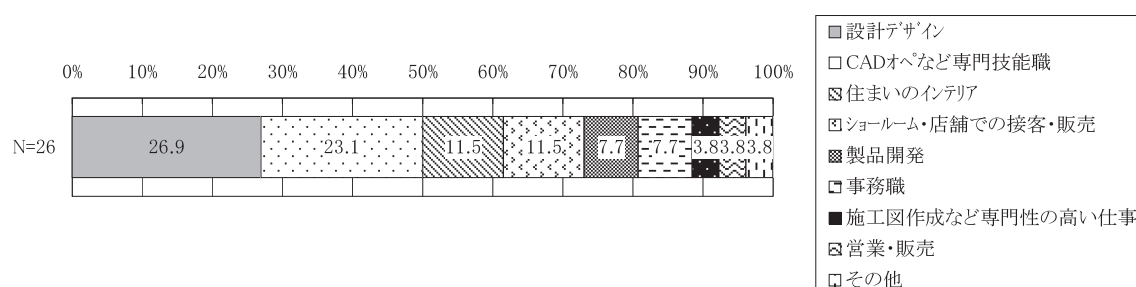


図4 建設・住宅・インテリア業界における希望職種

## 4 再就職支援の希望

希望する再就職支援を図5に示す。「求人に関する情報を提供する機関、サービス等」が身近に欲しいと考える卒業生は63.2%となり最も多い。また、仕事の専門知識の習得、職業能力・技術の習得、資格取得など、自己の専門性、実践力を高める講座、セミナーが必要とする回答が半数を超えた。一方、情報提供サービスに対する希望は仕事の専門情報への希望が36.8%を上限として、地域に関する情報提供サービスや人とのネットワーク形成への関心は低い。

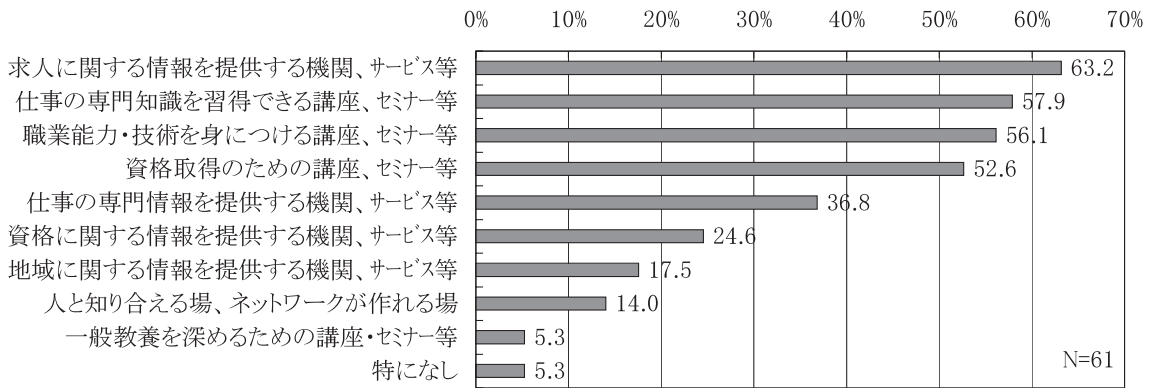


図5 再就職支援の希望

#### IV 就業者の意識

現在仕事についている卒業生に、仕事への評価、転職、転業への意識について質問を行った。以下に結果を述べる。

##### 1 仕事への評価

仕事に対する評価項目を12項目設け、重視している度合い及び満足している度合いを4段階で質問した。結果を図6、7に示す。また、重視度、満足度をそれぞれ点数化し（重視＝4点、やや重視＝3点、あまり重視していない＝2点、重視していない＝1点、満足＝4点、やや満足＝3点、やや不満＝2点、不満＝1点として算出）、平均値を算出し

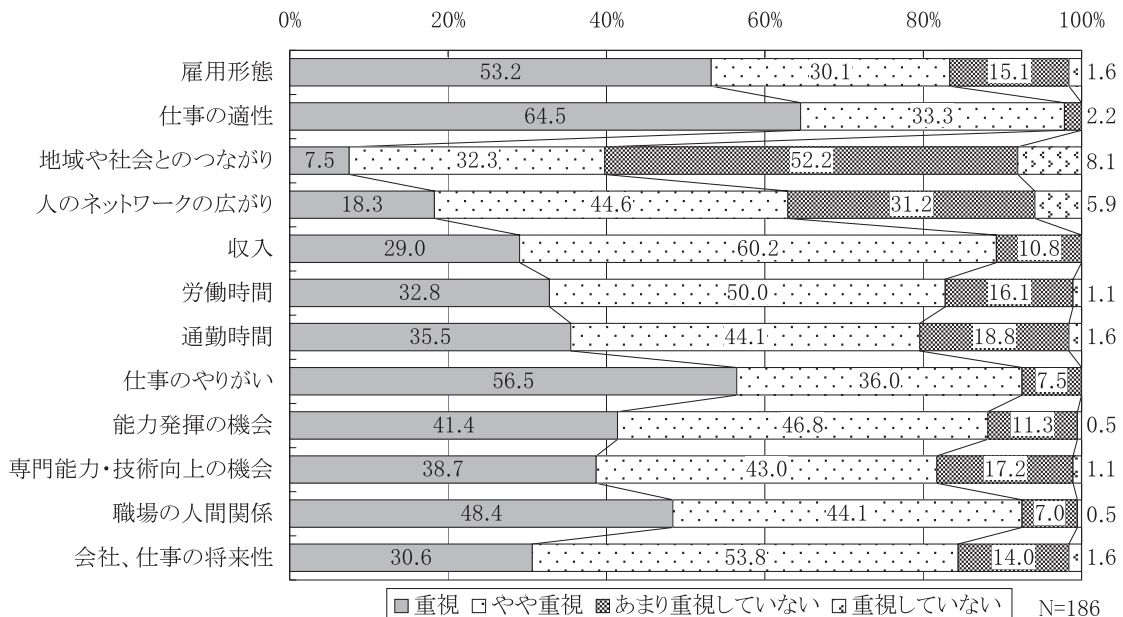


図6 仕事の重視項目

た。結果を表2に示す。現在の仕事に対して概ね満足の傾向にある。重視している項目と比較すると、「雇用形態」、「地域や社会とのつながり」、「人のネットワークの広がり」、「通勤時間」については、重要視する度合いに比べ満足度が勝っている。しかし、そのほかの項目については重視しているが実際の仕事への評価は低い結果となった。特に、「収入」、「労働時間」、「専門能力・技術向上の機会があるかどうか」については評価が低い。また、就業環境の範囲を越えた「地域や社会とのつながり」「人のネットワークの広がり」については、他の項目に比べ重視している割合が低い。

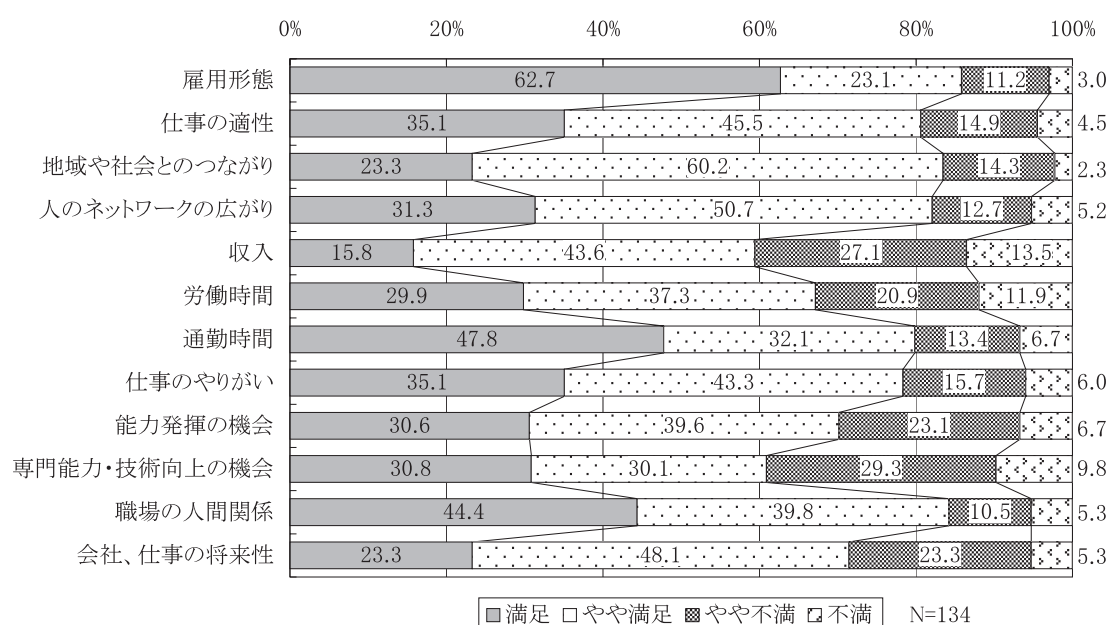


図7 仕事の満足度

表2 仕事への評価

	重視していること	現在の評価
自分の雇用形態（正社員、契約、パート等）	3.39	3.46
仕事の適性（仕事が自分に合っているかどうか）	3.62	3.11
地域や社会とのつながり	2.41	3.05
人のネットワークの広がり	2.85	3.08
収入	3.22	2.62
労働時間	3.14	2.85
通勤時間	3.11	3.21
仕事のやりがい	3.47	3.07
自分の能力発揮の機会があるかどうか	3.35	2.94
専門能力・技術の向上の機会があるかどうか	3.24	2.82
職場の人間関係	3.47	3.23
会社、仕事の将来性	3.24	2.89

## 2 転職・転業・独立の希望

### 1) 業種・働き方の希望

転職・転業・独立の希望を聞いたところ、転職希望 45 名 (34.9%)、転業希望 4 名 (3.1%)、独立希望 12 名 (9.3%) となり、現在の仕事を継続希望する者は 68 名 (52.7%) となった。このうち、転職・転業・独立希望者に業界・働き方の希望を聞いた。結果を図 8 に示す。転職希望者は転職先として「建設・住宅・インテリア関連」を望む者が 53.3% と過半数を超えた。現在の職場との齟齬はあるが、同じ業態で仕事を続けていく姿勢がみえる。また、独立希望者の 66.7% も「建設・住宅・インテリア関連」で働くことを望んでいる。建築業界、特に建築士を取得した女性が社会で仕事を続けていく 1 つの方法として独立起業して自分の建築士設計事務所を構えるというものがある。この結果からも仕事継続への意欲および自分自身で仕事を行っていく姿勢が伺える。

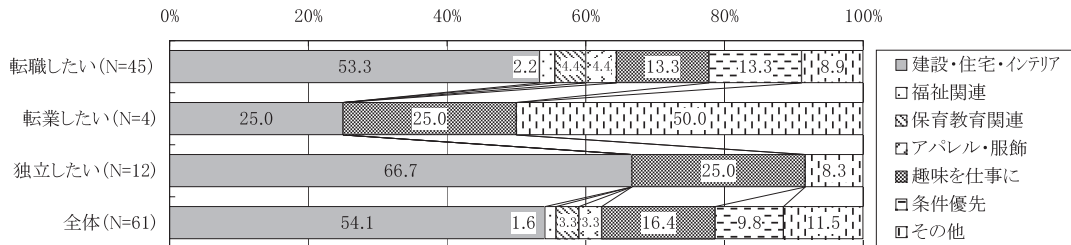


図 8 転職・転業・独立希望者の希望業界

### 2) 建設・住宅・インテリア業界における希望職種

前述の問いで「建設・住宅・インテリア業界」を希望した 33 名にどのような職種を希望しているかを質問した。結果を図 9 に示す。「住まいのインテリア」に関連する職種を希望する者が全体の 36.4% である。転職希望者、独立希望者ごとにみてもそれぞれ 37.5% となり差はない。転職希望者の残りの希望は「設計デザイン」16.7%、「ショールーム・店舗での接客・販売」12.5% に始まり多岐にわたる。一方、独立希望者は「設計デザイン」、「施工図作成など専門性の高い仕事」、「CAD オペレーターなど専門技能職」が残りをしめ、設計関連の専門職への強い希望がわかる。これらは現在仕事についていない卒業生への質問結果と同様の傾向でもあり、住居学科の学生は卒業後、再就職、転職等の場面においても住宅・インテリア関連職への希望が強いことがわかる。

### 3) 転職・転業・独立時期のイメージ

次に、具体的にいつ頃を目途に転職・転業・独立を考えているのかを質問した。結果を図 10 に示す。転職希望者は「1 年後」62.8%、「3 年後」20.9% と全体の 8 割を超える者が早期に転職をしたいと考えている。一方、独立希望者は「3 年後」33.3%、「5 年後」



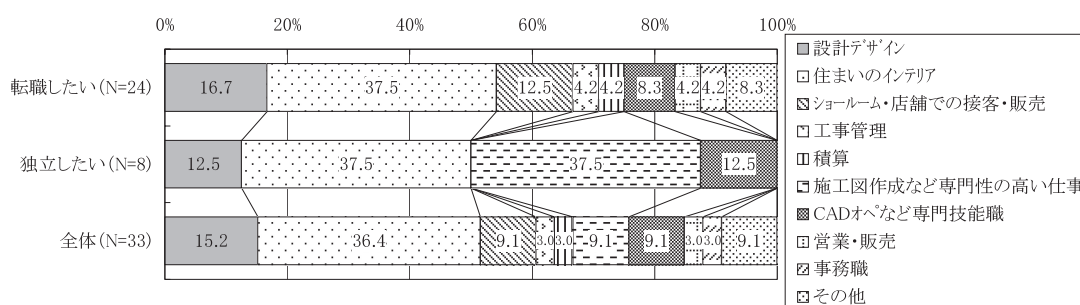


図9 建設・住宅・インテリア業界における希望職種

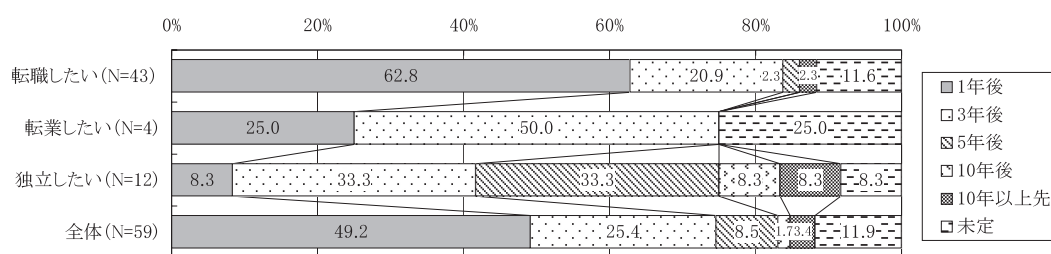


図10 転職・転業・独立時期のイメージ

33.3%となり、ある程度の年数をかけて独立したいと考えている。転職の場合、卒業生の転職・退職理由からも現職の環境への不満が多い。今回、転職希望理由は質問項目にないが、早い時期により良い条件の職場に移りたいと望んでいるといえるだろう。また、独立、起業を検討している場合、年数をかけある程度の仕事の基盤をつくる期間を設けているといえよう。

## V 転職・再就職の経験

就業経験のある卒業生に、転職、再就職の経験を質問したところ、転職経験者は185名中129名(65.8%)、再就職経験者(1年以上期間をおき再び働き始めた場合を再就職とした)は185名中26名(13.3%)であった。転職回数は平均2.19回、最高5回である。再就職回数は平均1.35回、最高3回となり、平均離職期間は約2年半、最長離職期間は10年8ヶ月である。転職、再就職経験者に転職時、再就職時の有益な情報提供先について質問を行った。以下に結果を述べる。

### 1 転職経験者が考える有益な情報提供先

転職経験者に転職をする際に有益な情報を提供してくれたところを質問した。結果を図11に示す。「求人雑誌」が最も多く41.9%になる。ついで、「公的機関」36.8%、「新聞の求人欄」27.4%となり、公的に情報提供を行っている機関、媒体が有益と判断されてい

る。また、「インターネット」が21.4%となり、家族関係者、知人、民間の職業紹介機関を上回った。上位3つについては、公的な役割を担っているため情報への信頼性が高いためと考えられる。また、「インターネット」については現在ホームページサイトで転職支援情報の提供が豊富であり、情報へのアクセスのしやすさを含め情報の有益性につながっていると考えられる。

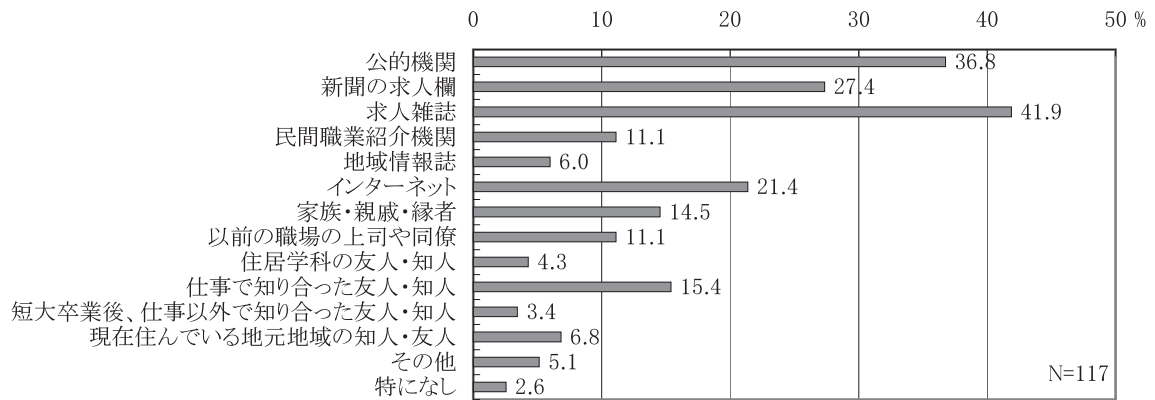


図11 転職時の有益な情報提供先

## 2 再就職経験者が考える有益な情報提供先

再就職経験者に再就職する際に有益な情報を提供してくれたところを質問した。結果を図12に示す。先の転職経験者の結果と同様に「公的機関」、「新聞の求人欄」、「求人雑誌」が上位をしめ、「インターネット」が後に続く。転職経験者の15%前後は、「家族・親戚・縁者」、「以前の職場の上司・同僚」、「仕事で知り合った友人・知人」といった人のネットワークを介した情報は有益だったと回答したが、再就職希望者は「家族・親戚・縁者」が13.0%であるが、それ以外は10%に満たない。

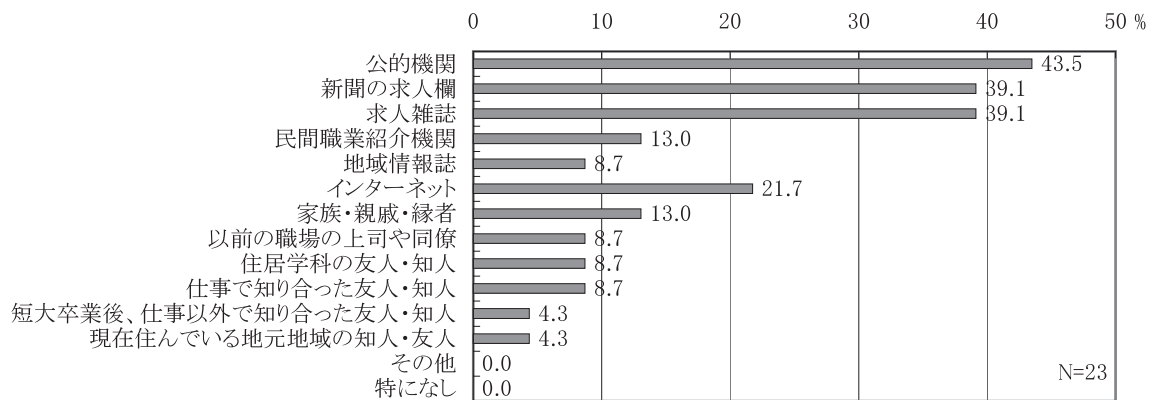


図12 再就職時の有益な情報提供先

### 3 再就職時に利用したかった機関・サービス等

再就職の準備をする際に身近に欲しかったものを聞いた。結果を図 13 に示す。求人情報の提供機関、サービスが最も多く 39.1%をしめる。また、職業能力・技術の習得、仕事の専門知識、資格取得といった自己研鑽、スキルアップのための講座・セミナーへの要望、仕事の専門情報の提供期間・サービスが高い。就業者の仕事重視項目、および現在仕事についていない卒業生の再就職支援では関心が低かった「人と知り合える場、ネットワークが作れる場」、「地域に関する情報を提供する機関、サービス」が 26.1%、21.7% となり関心を集めている。

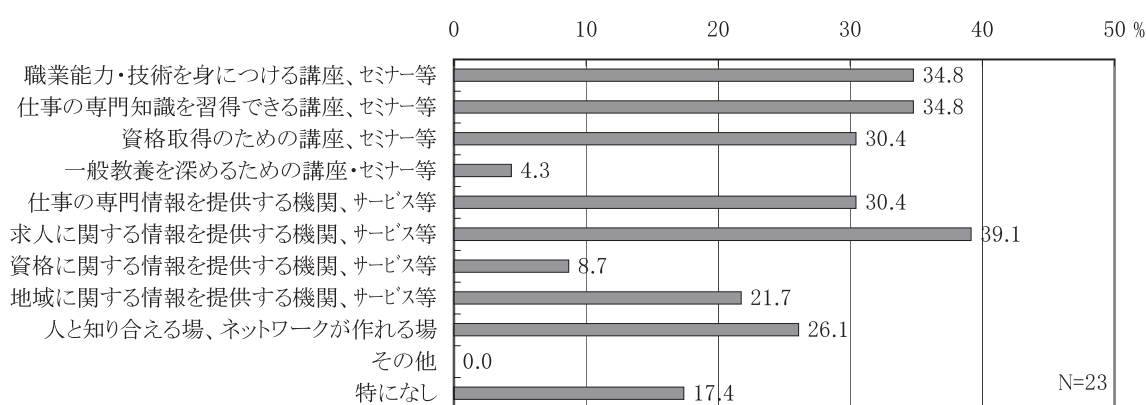


図 13 再就職時に利用したかった機関・サービス等

## VI まとめ

今回の調査より以下のことが明らかになった。

- 1) 現在就業していない卒業生の就業意向は、条件次第で就業を希望する者が 7 割近くになり、雇用形態はパート・アルバイトを望む者が多い。働きたい業界は、「建設・住宅・インテリア関連」が最も多い。卒業後も職業選択の際に住居学科における専門教育が影響が垣間見える。
- 2) 現在就業している卒業生は、収入、労働時間への満足度が低い。また、半数近くが転職・転業・独立をしたいと考えている。転職、独立の希望業界は「建設・住宅・インテリア関連」が最も多く、現在就業していない卒業生と同様に、職業選択の際に住居学科における専門教育が影響がみえる。
- 3) 現在就業していない卒業生は、人と知り合える場やネットワーク形成、地域情報への関心が低い。しかし、再就職経験者が再就職時にあればよかったものとして人と知り合える場やネットワーク形成、地域情報があげられている。

今回の調査を通し、人とのネットワーク形成、地域や社会とのつながりへの関心の低さが明らかになった。生活スタイルに変化が起き、離職期間が長くなる場合、かつての仕事関係の人付き合いが希薄になる。有益な情報提供先で仕事関連の知人・友人が有益な情報提供先にあがらず、身近にあればよかったものとして人と知り合える場やネットワーク形成、地域情報があがったのは、そのような付き合いが途絶えているとも考えられる。建設・住宅・インテリアといった専門技術職を志向する場合、現場に求められるスキルは常に変化していくため、現状把握を行うためにも現職の人間とネットワークを持つておくことが再就職にも有効である。このような中、短期大学が卒業生に対し、同窓会やホームページ上で情報提供やネットワーク作りの場を提供することは可能であろう。

本学は1984年に開学し、第一期卒業生が40代に突入したばかりであり、女性の労働M字型カーブを抜けたばかりである。今後、この40代の卒業生たちがどのように仕事を継続していくのか、どのように職場復帰したのか、卒業生の就業経験、転職経験、再就職経験、生活スタイルとの関係、就業スタイルの変化などが、現在の30代、20代、在学生とともに共有される情報として蓄積されていけば、現役学生にとって自身のキャリアを検討するための有効な資料となるだけでなく、短大教育におけるキャリアアップ支援の検討材料にもなり得る。

#### 参考文献

- 1) 小林文香：短期大学における専門教育プログラムの課題抽出 第一報 住居学科卒業生動向調査報告，共栄学園短期大学研究紀要，22号，pp.63-83

#### 謝辞

本研究にあたり、予備調査を含めアンケート調査にご協力いただいた多くの卒業生に深く感謝申し上げます。